

第50回ゴミパイプライン協議会 議事録

会議名	： ゴミパイプライン協議会
開催日時	： 2026年5月16日(土) 9:50～11:40
場所	： 芦屋市環境処理センター会議室
参加者 利用者の会より 市より 共同企業体より コンサルタント	：山口委員長、友田委員、春木委員、浅田委員、池西委員、三浦委員 ：和泉部長、平見室長、 ：【環境施設課】 尾川課長、荒木係長、 畑主査(司会進行)、林主任 ：【収集事業課】 平野、浜口、山本、廣田 ：【TMES株式会社】曾根所長、花岡課長 ：【人・まち・住まい研究所】浅見、笠原

司会	皆さんおはようございます。
一同	おはようございます。
司会	時間が早いんですけども、始めさせていただきます。第50回のパイプライン協議会ということで開催させていただきます。まず議題に入る前に、高島市長の方から挨拶文をいただいております。また、伊藤前市長の方からも挨拶文をいただいております。今回は高島市長の挨拶文について、市民生活部の和泉より代読させていただきます。よろしくお願いします。
市	皆様おはようございます。生活部の和泉でございます。大変お世話になっております。ありがとうございます。本日市長の方ですね、他の公務がありまして、出席が叶いませんで、私の方からメッセージを代読させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 陽春の候、ゴミ収集パイプライン利用者の会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また日頃より本市環境行政に対して多大なるご理解とご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。本日ここに「第50回のゴミパイプライン協議会」が開催されますことを、心からお祝い申し上げます。本来であれば、会場に参りまして、皆様に直接ご挨拶を申し上げるべきところでございますが、公務の都合により、あいにく欠席させていただきました。誠に申し訳なく存じますが、何とぞご容赦賜わりますようお願い申し上げます。さて、貴団体におかれましては、これまで長年にわたり廃棄物運搬用パイプライン施設を始めとした環境行政の問題解決に本

	市環境施設課と協働して取り組むことで、住みよいまちづくりに多大な貢献をされてきました。皆様のこうした主体的な活動こそが、本市の発展を支える大きな原動力であり、深く敬意を有する次第です。本市といたしましても、協働によるまちづくりの実現に向け、引き続き皆様と手を取り合い、一步ずつ取り組んでまいりたいと考えております。今後とも、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。結びに本日の会議が実り多いものとなりますこと、並びにゴミ収集パイプライン利用者の会の益々のご発展と、ご参集の皆様の健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。令和8年5月16日。 芦屋市長高島峻輔代読でございます。
司会	続きまして、議題のほうに移させていただきます。また資料の説明なんですけども、各資料の右上に資料何番というふうな形で書かせていただいております。あと各ページの下に全ページの通し番号をふってありますので、ご説明のときはご活用ください。ということで、まず情報共有議題の2番、2025年度活動報告ということで、まず芦屋市のほうから説明させていただきます。資料2ページになります。
市	資料1。2025年度活動報告についてお願いします。芦屋市ですけども、1番代替収集の検討ということで、昨年度につきましてはパイプライン施設の代替収集案について重点的に話し合いを進めました。8月からはファシリテーターを導入し、公平な立場から代替収集案の検討について差配いただきました。それに伴い、ゴミ収集パイプライン利用者の会の皆様のご意向だけでなく、ご意向に至るまでの背景も感じとることができ、今後の両者にとって、さらなる信頼関係を築いていける機会となったと実感しております。また代替収集案の検討にあたっては、ごみ収集業務を行っている収集事業課との連携を行い、ワーキンググループにおいても意見や実務の現状報告をしていただき、代替収集の検討を進めてまいりました。今年度実施するモニター実施にあたっては1月頃より管理組合・自治会に対して協力のご依頼をさせていただき、理事会や役員会等で説明及びご検討をいただきました。説明会では利用者の皆様の環境に対する意識の高さを実感することも多く、本市環境行政が皆様のご理解とご協力の上で成り立っていることを再認識いたしました。ご協力いただける管理組合・自治会も順次決定してきており、今年度のモニター実施に向けた土台を築くことができたと考えております。 2番目CO2の削減について、令和7年度ゴミ収集パイプライン利用者の会及びTME Sと連携しながら引き続きCO2の削減に取り組みま

	した。令和6年度実績では基準年度よりも削減率が19.5%となりました。令和7年度については現在データ収集中ですが、さらなる削減率が見込まれます。しかし、老朽化による輸送管の穴あきや投入口に投入してはいけないごみによる運転停止回数が増加してきております。特に芦屋浜地区の輸送管は、導入後約45年以上経過しております。特に老朽化による穴あきは、さらに増加していくと想定されます。運転停止になった場合、復旧作業に伴う通気運転による電力使用量が増加する為、輸送管の計画的な補修や投入できないゴミの啓発を行ってまいりました。芦屋市の活動報告は以上です。
司会	ご質問などのある方はお願いします。
利用者の会	投入できないごみね、これをもっと進めなあかんね。これ、今も進めてるけど。
利用者の会	投入してはいけないごみ。投入できないごみ。市は市民のために言えないし、強く言わなあかん。
利用者の会	共有財産ですから。
利用者の会	そうだよ。これもっと言うて、輸送管がこないなってる。もっと厳しくやってよ。
司会	そしたら次のT M E Sさんの方にいかせていただきます。3ページの方になります。T M E Sさんよろしくお願いします。
T M E S	T M E Sの花岡でございます。よろしくお願いいたします。ご報告させていただきます。1はシステム異常について5月末から7月末の約2ヶ月間で浸入水による影響と思われる異常が26件発生いたしました。それによる運転停止も発生しておりますので、今後もこういう状況には注視してまいります。浸入水の影響を認められた場合は現地で水抜き等を行った後に収集運転をさせていただいております。現在の300系統の異常箇所においてはそのように対応させていただいております。またごみ堆積による運転停止は多く発生しております。運転停止7件のうち6件がそれに該当します。つまりの原因となるごみを投入しないようにお願いいたします。なお、UPSバッテリーVベルト投入口交換に関する部品交換等は48件あり前年度から58件からは減少しております。巡回点検時に早期に異常を発見し、修繕を行うことで利用者様のご不便を減らすことに今後も注力いたします。 2番電気使用量の削減について。電気使用量については令和7年度は令和4年度から目標としておりました。15%以上削減することができました。皆様にご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。こちら令和5年度は定時満杯運転や輸送管置換工事による運転停止が

	ありましたので、令和4年度の電気使用量と比較させていただいております。今後さらに削減させていただくのは、定時満杯運転、以前も一度実施させていただきましたが、満杯の箇所だけ運転するといった方法も可能となっております。報告以上となります。
司会	ありがとうございます。質問等ある方はお願いいたします。
利用者の会	定時満杯運転ね、これまだちょっと具体的に提案をお願いしたいですね。特に水・木・金とか早朝の満杯回数いうたら割と少ないからね。水・木が落ちとるから、あまりにも定時満杯運転を検討したらやれるんちゃうかなと。これまた提案をお願いしたいと思います。
T M E S	承知致しました。
利用者の会	利用者様。様と言うのが何か、利用者で言っちゃうかなと。
司会	続きまして、ごみ収集パイプライン利用者の会の皆様の方からお願いいたします。4ページになります。
利用者の会	利用者の会、山口です。資料2番に2025年の活動ということでいくと、去年4つの活動ということを提案しております。1つは継続的な迅速な情報収集ということ。2番目は代替案検討と課題解決の提案。3番目が啓発と注意喚起活動。4番目が新しいまちづくりの提案。この4つを目標に考えた。 1番目はここにありますように、情報を知らないと取りようがない。例えばどんなゴミを捨てていいのか捨てていけないのか分からないと、何もできないということで、いかに情報を迅速に私たちが捉えてそれを行動につなげるかということが大きな柱です。 今年、2025年から変えたのはAIができて、AIが毎日私の方にヨーロッパの投稿と東南アジアの投稿とアメリカの投稿を毎日朝6時に送ってくるようにしています。その情報を見ながら、日本の我々はどうなのか。特に注意するのはヨーロッパです。ヨーロッパは非常に厳しいんですけども、もうリサイクルは遅れているという発想です。ヨーロッパは。何ぼリサイクルしても、それは熱をエネルギーを使ってリサイクルするだけで非常に問題があるということで、企業の設計段階からごみを減らして、また、そのまま使えるようなシステムに変えようということでEUは変更をしました。その辺の情報も含めて全世界的な情報収集を今考えております。 2番目。代替案は検討していますけども、まず利用者の会は11回会議を開きました。毎回ワーキングと協議会の情報を流して皆さんと一緒にどうしたら問題解決できるかということを話し合っていま

	す。 3番目。啓発・注意喚起。これはいつもやっていますが、年次報告書というのを作りまして、これを全住戸7000部印刷していますが、それを配布するというので、今年は芦屋市の方にもお願いした部分がありますけど、これを活用して、何とか全戸配っていますので、読んでいただける方ができるだけ多い方がいいと思って作っております。ゴミ詰まりゼロということを目標にしていますが、残念ながら5回ほど昨年度は停止したという状況です。 4番目はこれは今後も含めてですけど、何ぼ頑張ってもバイプラインをゼロにしても、止まるのをゼロにしても、街全体が活力がなくなっていったら意味ないですね。だから街全体をどうするかということも考えていかないといけない大きな問題として残っています。それで私たちの活動は芦屋市と一緒にあって、バイプラインを通じてごみの問題、CO2の問題を含めてどうやったら私たちが快適な暮らしができるか。しかしながら、残念ながら今まで以上の快適な暮らしはできないので、その状態でどうしたらいいのかということは今後とも住民の皆さんと一緒に考えていこうとしています。この4つが私たちの活動です。以上です。
司会	ありがとうございます。何かある方いらっしゃいましたら。では次に人・まち・住まい研究所さんのほうからお願いします。
コンサルタント	はい。資料3のバイプライン代替収集案合意形成のファシリテーションの業務を今年から受託しています。受託事業者の癖でレポートを厚くしたい傾向がございまして、何か枚数が多いんですけど、業務の概要としてはワーキンググループの皆さんとともに代替収集案のアイデアを出したり、後半は実証実験モニター調査という名前にしましたけど、実証実験のことを相談したりしてきました。大きいページ番号で業務実施記録ということで表がついてますけれども、基本的にワーキンググループの会議の前に担当さんとの協議がありますので、6ページ7ページにわたって、結構たくさん協議してますということ。6ページの真ん中辺は下から2番目バイプライン協議会に参加させていただいたりしています。それから7ページの下から3つ目、他課協議ということで建築住宅課、まちづくり課とゴミカート収納ボックスというのを考えているんですけど、これが建築に当たるのか当たらないのかみたいな協議をしたりもしています。大きな8ページ、下の2番協議の経過時系列まとめとさせていただいてますけれども、7月8月から開始していますが、前提条件の整理、ファシリテーション体制の確立ということで、9ページ5番、住民意見の網羅的聴取みたいなことをさせていただいて、何をもって評価軸にするのかみたいな

	ことを相談させてもらって、下の4番で地下ピット方式どうなんやという話が出ていましたので、地下ピット方式について協議するのが何回か続きました。10ページに8番カート収納方式。カートを収納する方式。9回10回の⑥番は実証実験を具体化して、地下ピット方式は今回やめとこうかということにしています。7番目がこれはさっき言った建築住宅課、まちづくり課のところでした。11ページですが⑧⑨と実証実験の方針ですね、仕様を詰めていくという作業をしてまいりました。一応3月までそんな形でやってきています。 業務の成果としてはざっくりですけども、代替収集案の基本方針が定まったということ。基本方針というのは、どんなビジョンで代替収集案を考えるかということですね。不便が増えないとか、景観に配慮するとかそういったことが決められたということと、モニター実施の枠組み、まだモニター対象地が確定していない部分はありますけれども、どんなことをするのかというのは概ね決まりまして、昨年度内に決まっております。それからモニター実施をしたときにアンケートですね、どんなアンケートが必要かみたいなことの設計もできました。それから代替収集案。いくつか各地域ごとに3種類の代替収集案を体験していただくことになりますが、その設備仕様と法令対応についてもほぼほぼフィックスできたかと思っています。あとは継続審議事項のところは積み残し課題としてレポートとしては書いていますが、今年度取り組んでいくということで主にはモニター実施をしていかなきゃいけない、ということとそれに伴って設備仕様を考えていかなきゃいけない。法令景観に関する継続審議が必要になっているし、運用ルールや合意形成に関する継続事項もまだ残っていますので、それもやっていかなきゃいけないというようなことを考えています。ということで年度内の成果と積み残し課題についてご報告をさせていただきました。以上です。
司会	ありがとうございます。何かご質問などおられる方はお願いいたします。よろしいでしょうか。議題の3番ということで、今年度2026年度の活動計画について説明させていただきます。まず芦屋市の方から。16ページになります。
市	資料4をお願いします。2026年度活動計画ということで芦屋市は1番、代替収集案の検討ということで、2026年、令和8年度につきましてはパイプライン施設の代替収集案にとって非常に重要な1年となります。現在まで机上で議論していた代替収集案を一部地域の利用者の皆様に実際に体験していただくモニター実施をいたします。ご協力いただく地域の皆様には感謝申し上げますとともに可能な限り負担の少ないモニター実施となるように対応いたします。また、地域の皆様には

	代替収集案の利便性や維持管理における諸問題などをご確認いただく事業である旨を適切に周知いたします。モニター実施後のアンケートにおきましては想定外の課題も浮き彫りとなる可能性もあり、よりブラッシュアップした代替収集案の検討にアンケート意見を活用してまいります。検討にあたってはごみ収集パイプライン利用者の会、環境施設課や収集事業課の意見だけでなく、道路・公園課やまちづくり課など関係機関の意見をワーキンググループ等で反映するよう継続してまいります。 モニター実施のデータ集約後はパイプライン施設の利用地域の皆様に集約結果を公表・説明し、2034年、令和16年4月から開始される芦屋浜地区のパイプライン運用廃止に向けた移行作業を自分事として実感いただけるようにいたします。今年度行う「代替収集案のモニター実施」はこれまで以上に意見集約・合意形成に時間がかかりますが、適宜、ゴミ収集パイプライン利用者の会とスケジュール管理を行いながら進めてまいります。代替収集案の決定につながる1年にしてまいります。
司会	何かある方。
利用者の会	いいですか。代替収集案の検討はよく分かるんですけども、これだけじゃ、ちょっと僕自身の意見としては少ないなという気がしてます。何が問題かといったら賃貸関係のトラブルが発生して、今も続いております。やっぱりこれは大きな問題で、これが今後とも続くと、相当な税金を投入して解決しないといけないという問題があるので、これは代替収集も大切ですけども、大きな問題だと思います。後で僕の方で提案はしますけれども、それもやはり目標として入れてほしいというのが希望です。どうでしょうか。
市	確か山口さんおっしゃるように、今、高浜でもいろいろ一部問題が起きているんですけども、特に賃貸関係で問題が起きています。なかなか解決策が見出せないような状況ではあります。確かにそのの整理というか、解決というのも1つの目標に入れたいと思いますので、また文言を考えて中に入れたいと思います。
利用者の会	それで考え方としていくつかあるんですけども、ステップなしで100%ドーンとはできないので、ステップを3段階にして、これをやったらどうかということで僕らもそれがあったら提案しますので。そうしたらやりやすいと思います。以上です。
司会	他ある方はいらっしゃいますか。では、T M E Sさんのほうに移らせていただきます。お願いします。

T M E S	T M E S ご報告いたします。1番安定稼働への貢献としまして、巡回点検で不具合対応を行い、異常発生を未然に防ぎ、システム異常や問合せを減らせるように努め、安定稼働に貢献いたします。 2番電気使用量の削減。今後も環境への取り組みとして、CO2排出量の削減、効率的な運転を行い電気使用量を減らせるよう皆様のご協力の下、社会貢献に取り組んでまいります。削減目標としましては令和4年度と比較して、30%削減を目標にいたします。以上です。
司会	ご質問等ある方はお願いします。
利用者の会	はい
司会	お願いします。
利用者の会	T M E Sさんの目標で2番目は本当に素晴らしいな、目標値をちゃんと30%してある。素晴らしいんですけど、1番、非常に難しいんですけども、貢献いたしますとか勤めるとかいうのは目標ではなくて、それは目標というのは、やっぱり次の年になってきちっと測定できる結果じゃないと目標じゃない。願望に過ぎないんですよ。ですから私たちはお金を使って活動しているので、ちゃんとした目標、分かるんですよ、状況はよく知っています。もうボロボロの状態を頑張って維持していると、非常に分かります。じゃあ、その中で何が具体的だろうというところまで深掘りをして、目標値をどういう形にするか別として、ちゃんと出して、それに対して、じゃあ1年後にどうだったのか、できなかったらできなかった。じゃあ、何が問題なのかという形に進めないと願望では何も前に進まない。そういうことをお願いいたします。
利用者の会	住民へ、住民にこないせなあかんやないか、というその辺も中心にして、いろんなトラブルを起こしているでしょ。やっぱり下に重たい金属が落としたら下にスクリー式なんかやったら羽根とか傷んでしまいますよね、軸なんかも。そういう点で住民のトラブルね。これもっとアピールして、起因のやつを減らすように。日頃もし何かお前に何しとんのや、いうのあったらどんどん言ってもらってアピールしてもらったらいいいと思いますから。これすごいね、令和7年度と比較して17.5%削減ね。すごいな。
T M E S	削減目標が今年は約17.5%。
利用者の会	いや、30%。かっこして、令和7年度と比較して、約17.5%
T M E S	削減目標が令和4年度と比較した場合は、30%削減目標で、令和7年度と比較した場合は17.5%の削減を目標と。

利用者の会	令和7年度より17.5%削減するということですね。それはすごいな。こういう具体的なことは頭の中に入っているねんね。それやったら満杯運転やね。
T M E S	そうですね。機器を入れ替えさせていただいたので、それによって。
利用者の会	それによって何パーセントか落ちているね。そやそや、そやそや。ノーロードパワーか。ノーロードパワーを、運転の時の。それでも数%下がっている。
T M E S	そちらの効果がかなり。
利用者の会	かなり大きい。そう。それは期待大よね。
利用者の会	T M E Sさん非常に頑張っていていて点検しているところも、ちょっと通りがかりに見たことがあるんですけどね、最近何かね、安全対策がおそろかになっているような事象が結構、世間一般でね、出てきていて、事故とかが結構ニュースになっていますよね。ですからああゆう閉所に入っていくときの作業確認ですね、マニュアル化して、きっちり安全に気をつけていただきたいなと。今事故ゼロですから、事故ゼロをずっと継続するということをやっていただきたいなと思っております。ベテランの方が退職されている、配置転換ですかという話も聞きましたので、新しい方、安全教育をしっかりした上でマニュアルを守って安全の作業、事故ゼロをお願いします。
利用者の会	ヒヤリハット活動とかそんなのやっているんですか。
T M E S	毎月やっています。安全パトロールも毎月やっていて作成していて、提出させていただいてます。
司会	次の項目、ゴミ収集パイプライン利用者の会に移らせていただきます。よろしくお願いします。
利用者の会	利用者の会、山口です。私たちは今年5つの目標を挙げております。具体的には1から4まで具体的で、まず1つは私たちが原因でパイプラインを停止させるというのをゼロに。これは年間です。今年心配していたんですね、去年ちょうど3月の時期が大体問題なんですね。3月から4月にかけていろんなものを捨てて、これが今年はなかったですね。だからホッとしましたんです。ですからまだ今、安心できる状態ではないので、継続的にどうやったら全部できるかということを皆さんと話し合いながらやっていきたいと思えます。実際にパイプラインの現場に行って話を聞くと知らない人が多いんじゃないかという。知っている人がちゃんとやっている人にインタビューしてるんで、そうなんですけど、みんな知らんとちゃうかなという話がやっぱり相変

	わらずあるので、これはやっぱり何らかの取り組みでやっていかなきゃなと思います。 2番目は迅速な情報提供。これは相変わらず迅速な情報提供を利用者の会をメインに通じてやっていると思います。その中で1つこれは皆さん方はよく知らない、引継書というのを毎年作ってまして、私たちの活動は1年ごとに組織が変わるんですね。次の方は全く前任が何をしたかもしれないということで24ページあるんです。今回は。引き継ぎ書を渡してこれを説明して渡してこれを次の方に持って行っているんですが、どうせ次の方は渡さんだろうということで毎年作っております。非常にまとまったやつなんで。しかも、今回からAIともいろいろ相談して、絵を多くしなさいと。字ばかり書いたら誰も読まないよということでできるだけ全てのページに絵を使ってやって、こういう工夫をしながら、情報を提供すると。それから実証実験モニターが実施されますので、何とかそれに関して利用者の意見というのを、どうやって組み取るかということで、その辺は芦屋市と協力しながら、その結果どうだったんだということを3月までにまとめていきたいなと思っております。 CO2削減、これも私達の大きな課題だと思っております。既に19.5%という基準に達していますが、私たちは20%以上のCO2を目指しますと。ちょっとぼやかしたから申し訳ないんですけども。どうしているかと言ったら、今、朝吸引しているんですね、全投入口。ところが満杯でないやつも吸引しているんですよ。可能性として満杯でないところを選択して、そこは吸引しないというようなやり方をちょっと考えたらどうか、ということでデータをお願いしていたんですけど来たのは昨日ですからね。今回は提案できなかったんですけども、その辺でワーキングを通じて具体的に当然利用者の人たちは迷惑というか、リスクがあります。ですけども、やはり今後のことを考えてあえてやっていこうということでいきたいと思います。この1から4の活動を通じて最終的にはパイプラインを条例で決めた期間まで、なんとかなんとか頑張って、芦屋市の皆さんと頑張って維持していこうと。そして、そういう活動を通じてなんとかこの街を活性化できたらいいなというふうに考えています。以上です。
司会	ありがとうございます。他何かある方いらっしゃいますでしょうか。
T M E S	満杯箇所のみの運転なんですけど、システム上で満杯箇所のみを運転できるという設定ができるので。
利用者の会	できるねんね。

T M E S	そちらをご利用いただければと考えております。
利用者の会	特に毎月1日からずっと出てますよね。あれ見ると、月曜日は多いけども、その他20%ぐらいなんで。じゃあ、どこが20%で、どこが80%かを投入部分をチェックして、じゃあ、1回掴みでこの投入口は朝引かなくても大丈夫だね。とそういうのをワーキングで詰めてやっていったらもっといい結果が出るじゃないですか。
利用者の会	1月から3月まで月曜日は平均すると、52地点が満杯。火曜日は24地点。水曜日が20地点。木曜日が16地点。金曜日が17地点。土曜日が地点15。朝5時で50地点。そやからもうちょっと少ない時期があるね。それも含めてやったらええの。それと利用者に理由としてね、例えば代替案検討するときにそれぞれどんだけの容量のごみが各地区出てるかと。下の貯槽が700ℓ やったらそれを満杯になる回数でね。ここは週2回（収集）やるときには、どんだけの容量のボックスがいるかというのを実証実験いうか、検討するために、ちょっと満杯運転やりますみたいなことでそれもええと思うわ。それね、各地区ね、理由としてね、1ヶ月満杯運転やります。容量どんだけのゴミ出るのかな、シーズンによってちゃうけどね。春夏秋冬とかにシーズンによってちゃうけど、それも一つの理由として。
司会	他にある方は、よろしいですか。それでは人・まち・住まい研究所さんの方からお願いします。
コンサルタント	資料⑥。今年度の計画といいますか、今年度も業務の受託しております、昨年度と同様の業務受託をしております、工程表といいますか、作業計画をこういった形で出していますので、それを申し上げます。今年度はモニター事業が大きな活動の大事なところに、モニターのその代替収集の設備を入れ替えたりというのは、また別の事業者さんの話になるのかな、また別の業務になるというふうに認識しているんですけど。モニターをしていく上で、上から2番目の枠でモニター実施準備というところで実施自治会・管理組合を決定していくという作業を今やっていますけども、決まれば今度は実施自治会・管理組合への説明が必要になり、それには芦屋市さんとともに邪魔することが必要かなと考えています。モニター実施に関してはモニター実施場所が決まりますので、各住戸タイプ×3種類のモニター実施ということで計画をするのは、これのスケジュール計画とかをするのは、こちらのお仕事かなと思っているので、そこをお手伝いしようというふうに考えています。 最後1月にはアンケートとかヒアリングとかのまとめができると思っていますので、これをまた利用者の会様と共有していくようなスト

	ーリーになるかなと思っています。これ全体にわたって、1番上ですが、ワーキンググループ月1回開催していただいていますので、その場で流れに沿って、いろいろご報告とかご相談とか、こんな説明をしたいと思いますとか、モニターではこんなことが起きてますみたいなことを共有しながら、軌道修正をしていくというような議論を手伝いするというのが業務のど真ん中かなと思っているので、そんなことで今年度は考えていますということで以上、今年度の計画でした。
司会	ありがとうございます。何かご質問等あられる方はいらっしゃいますか。
利用者の会	11月に協議会。
コンサルタント	頃と聞いているので。
利用者の会	この時にはもう令和7年度の費用がもうはっきりしてんねんね。あれ10月に出るんやった。
市	9月議会で決算。
利用者の会	9月議会で終わってるんやから、10月のワーキングかその時点で出るんやね。
市	この11月の終わりぐらいで議員さんの方に報告する。
利用者の会	報告する。その時にははっきりしてる。パイプライン。
利用者の会	モニターは今、準備段階ですけども、住民、ラベルでもね、ほとんどの方は知ってない状況なんですね。管理組合自体が積極的に広報してないから、役員の中でも知らない人が多分おるぐらいの状況やと思うんです。ですから、その辺あまり時間がないんでね。市さんの方からもうちょっと積極的にしていただいたらいいかと思うんですけど。直前になって嫌や嫌や言われたら困るわけですからね。
市	出来るだけ早く。
利用者の会	理事長、山口さんのところの方は管理組合で、もう決定されてるんで、総会で決定されてるんで、そう問題はないと思うんですけども、私のところはまだそんなところまで行ってないんでね。私自身も役員でもなんでもないんで、ちょっと状況がよく分からない。若干不安があるんですよ。
市	もう決定次第、またチラシであったり説明会であったりというのは考えてます。
利用者の会	その辺はちょっと住民に対して十分説明できるようにお願いします。

司会	よろしいでしょうか。では次に議論議題として、4番の2025年の利用者起因及び、SBPの改善について説明をさせていただきます。また資料の19ページからT M E Sさんの方で資料7、8でよろしくお願いします。
T M E S	令和7年度パイプラインの情報報告を報告いたします。昨年度と比較しまして、異常件数が増加しており、特にシステム異常が増加しております。そのうち排出弁や吸気弁等の開閉異常が大幅に増加しております。排出弁吸気弁の開閉異常が96件となっております、昨年度48件から大幅に増加しております。 内容は弁にごみ噛みこみが50件、ブレーカートリップが19件となっております。輸送管ごみ堆積により運転停止となった高浜町、若葉町で、ごみ噛みこみが15件と多くなっており投入されたゴミが影響していると思われます。住民の皆様の起因となったものについては6件、こちらは確実に原因が判明しているもので、その他にも投入していただいたごみが原因で異常が発生したものは、数件あると思われます。まして伝送異常が31件と多くなっておりまして、こちらの内容は一時的な伝送異常発生で、パソコンの再起動故障解除により復旧となる異常となります。運転時に異常が発生することがあったんですが、運転時以外で発生した伝送故障についてはAVR等の部品交換で解消することができております。南芦屋浜地区のドラム飲み込み異常が30件。こちら30件のうち27件は高層住宅で発生しておりまして、こちらから考えられることは、階上階の上から重たいゴミを投入されるなどした場合に下の土台のゴムの部分に変形したりして、そこにゴミが引っかかってしまうなどがあるのではないかと考えております。実際現場に行ったときにこの土台の部分にゴミが溜まっていることがありましたので、異常が発生する場合はゴミを取り除いて土台部分を確認して異常がある場合は修繕を行っております。 バケットに関する異常29件、こちらバケット下ゴミ詰まりが16件、バケット内のゴミ詰まりが5件、部品交換7件、その他1件となります。バケット内ごみ詰まりといいますか、バケットのサイズギリギリのごみをバケットにちょっと大きいものに無理やり押し込んだ場合に、中でもごみが落ちずに止まっているという状況が見られました。バケット下ごみ詰まりについてはダンボールがたまたま引っかかってしまったとかなどの原因もございました。 鍵に関する異常は、22件でこちら部品の劣化、鍵穴の位置異常が9件となっております。こちら前年度13件からは減少しております。この鍵穴の位置異常が発生した箇所については啓発シールを貼らせていただいております。

	令和7年度に投入口点検口輸送管内から取り出したごみについては下記の20ページの資料に写真を添付させていただいております。かなり様々なものが入っておいりましたので、つまりの原因となりますので、こういったごみは投入していただかないようお願いいたします。システムトラブル等の資料については運転報告の資料を添付させていただいております。こちらのエクセルのデータでお渡しさせていただいておりますので、地区等を日にちを指定して確認いただく場合はエクセルのシートでフィルターで見いただければと存じます。
利用者の会	いいですか。高浜2とか若葉なので、停止しましたよね。パイプラインあれはどこのデータですか。
T M E S	止まっているための、こちらの、エクセルで停止させていただいたシートの臨時対応というシートに入力させていただいております。1番最後の。
司会	33ページ。
T M E S	まだ高浜町2については運転再開出来ない状況ですので、作業結果は継続とさせていただきます。輸送管内にはごみは。
利用者の会	何を問題としているかという、と、労務費なんですよ。トータル労務費がドーンとエクセル合計で出ますよね。ところがパイプラインが止まったらそれどころの話じゃなくて、何百万円ってかかっている話なんですよ。そのお金のデータがない限りパイプラインにどんなトラブルがあって、お金が何ぼかかっているのが全く分からない状況なんで、分析の仕様が。これは今後どうされます。
T M E S	記載したいと思います。
利用者の会	これだと0円なんですよ。
市	過程の数字に
利用者の会	臨時収集車。あれ何。10万円よりかかるいうた。
市	かかる費用としてはまず洗浄とか運用するそういう臨時対応の費用と臨時収集の費用と両方書いてある。あげるのは。
利用者の会	ここは臨時対応であったとしても臨時収集は別途明記しとかんと。それも住民に知らせなあかんね。
市	そうですね。
利用者の会	週10万円か。
市	まあそうですね。週10万弱。

利用者の会	週10万円かかっているやつ。1ヶ月40～50万円かかっているやつと いうのをやっぱり知らせないと。結局パイプラインの54億円か。あ の中からみんな削っていつているんだろう。85億のうちのパイプ ラインの中の54億円だったかな。あそこからみんな削っていつてんの やろう。
市	違います。これは普通の毎年パイプラインの経費の中のお金で今や っている。
利用者の会	経費の中という事は、計画している85億円の。
市	毎年2億円という話。
利用者の会	2億6千万。あそこから削られていつている。そやからそういうの も、やっぱり理解してもらわないといけない。UR。
市	それは全部で説明しています。UR。
利用者の会	URは両方ありますよ。高浜の2と4か。4の方はそう問題ない。1で
市	1回ありましたけど。
利用者の会	同じような時期にやったんやけど、その後。
市	特にない。
利用者の会	なんで違うんかね。2の方はずっとそういう状況が続いてる。同じ URでありながら、何か違うというのは。
市	でも録音もされているからあれやけど、やっぱり我々も住民さんと おうて現場で会ってる時でも、通る人通る人が、ほぼ外国の方が多 い。我々が住民さんと話し合っていて、ワイワイやっている時、いろ んな人通りに通ったり自転車に通ったりするんですけど、ほぼほぼ外 国の方ですね。
利用者の会	最近多いね。
市	高浜の4の方がどこまでそういう状態かは分からへんけど。でも2 はすごいですね。率が。
利用者の会	最近聞いた話で、日本語学校行ってる方、6ヶ月位で出て行くいう 話伝わってましたよね。実際学校の授業をちょっと見てみたら、いろ んなコースによって入学の時期が違うんだよね。ということはダイエ ーで見ていると外国人の方がバツと増える時と、ずっと減る時とどう も繰り返してるみたいな感じ。ということは、いろんなコース別に人 が入ってくるから、何ヶ月かごとに変わっていくから、もしそういう 方が、なかなか高浜の2が解決できない状況やったらね、やっぱりそ の学校の教育の中にひとつ入れてもらえるような方法が考えられへん

	のですかね。学校に入ってきた時に、ここに住んでいる人にはこういうものですよと出してもろた方が分かりやすいと思うんですね。我々がいくらしたかって限度があるんでね。その辺は考えられるかどうかは、昨日、一昨日ホームページを見て感じたことなんですけどね。
市	ちょっと我々もそれ調べてみます。
利用者の会	私の答えはまだもらってないんで。
市	計上するのであれば、市の方で。計上。
利用者の会	要するにこのパイプラインが止まったのにいくらかったのかってのを知りたいんですよ。正確に何百何十何円は要りません。で、その状態は住民にも知ってもらいたい。こんだけ税金使っている。あなたたちは本当の数人と思うんですけど、そのために、それは知らないと、おそらく同じことが続くんで、そのための情報はどこにありますかというのが私の質問です。これには書いてない。
市	これはT M E Sさんの報告なので、載っかってないんですけど。なんでどこかに載せるようにしましょうとか。
市	よく例えばこういうトラブルが終わったら雨とかで詰まっとって、トラブル終わったら何ばかりしました臨時洗浄で何ぼ、臨時収集で何ぼ。T M E Sさんが作ってくれて、説明はしてくれるんですけども。今回はちょっと終わっていないというのもあるんですけども、どっかで。
利用者の会	それは市の方で。市の方の課題。
市	書きますんで。
利用者の会	そう書いて。何やったら現地の投入口のどこへ。異常物以外にね、今現在何十万かかってますよと書いて、具体的な情報を住民に知らしてもいい。
市	ちょっとひとつ心配なのは、いろいろ議員さんの中には言ってくる人が出てくる。こんだけのお金かけて、ってものすごい出てきます。
利用者の会	それは受けて立ちましょう。だって市の問題なんで、基本は利用者の話なんで、言い返したらいいですよ。あの人なんちゅうか、トラブル起こしそうですよ。
市	いろんなこと言うてきますよ。
利用者の会	言うんなら、言うてこい。いうて。
市	高浜のやつでもね、やっぱり。

利用者の会	利用者の会の会合、来週か。
利用者の会	再来週です。
利用者の会	再来週あるから、そこに出てこいって。文句あったら出てこい。言うて。
利用者の会	利用者の会の2人ではない。
利用者の会	違うよ。それは絶対違うよ。
利用者の会	だいたい想像つきますよ。
コンサルタント	市役所は真面目だからさ。山口さん言ってるのはそんな終わったら清算したみたいな綺麗な数字しっかりした数字じゃなくて、大づかみにできるやつでいいので調整して。
市	臨時収集は簡単に言ったら1回1日5万円と思ってもらったら。
利用者の会	週2回やったら10万円。
市	それが延々続いていってる。場所が増えたら増えてきますけど、基本今の状態ではずっと1台でいってるから、それでいってます。洗浄は毎回何日かかるかは分からないので、1日土曜日だけきて終わろうと思ったらあかんかったから、月曜日もありますとか。いう形になるんで、その時に来る車であったり、交通誘導員であったり中に入る人で、ちょっと値段が変わってくるから。その金額を出すのが、〇〇の。
利用者の会	以前はね、結果報告で書いてたやつが、あれがないよね。
利用者の会	毎月決算してるんちゃうん。前月のこれこれなんぼで。
市	臨時収集はね。
利用者の会	これや環境施設課として。
市	臨時収集はしてる。
利用者の会	もちろん。
市	洗浄のやつは年に1回やる形になって。
利用者の会	それが毎月出したやつを書いていったらいい。
利用者の会	目的はあくまでも利用者の、出さんように。それが目的なんでね。一緒になって、その辺やっていかないと。
利用者の会	尾川さんもURの尼崎に行って。
市	行ってます。

利用者の会	URの回答はどういう回答なんですか。
市	URの回答はまずは、どれの回答ですかね。
利用者の会	入居する時に、要するに、今現状入居者が不法投棄して、詰まって、それでパイプラインがOKだけど、もう臨時収集で集めてると。日にちがかかっていると。そういう現状がありますよね。だから要するに不法投棄が問題ですよ。それに対して、URは貸す方ですから、それに対して私のイメージやったら、必ず入居申請しますわね、URはどこの人間か分かりますわ、国籍まで。それに対して、必ずごみの問題になってるから、ちゃんと捨てたらいかんよとか、そういう指導を入居の時にしてるんかとかということですね。
市	それは指導してくれて話もしてるんですけど、一番問題はその入居の方と実際に入居されてる方が違うっていうことが、結構あるみたい。
利用者の会	あ、そうですか。
市	だからその名義貸しじゃないけど、これは録音が怖いな。名義貸しというか、その方があって、そこに例えば5人とか6人の何とか実習生みたいなのを住まわせてみたいなのがある可能性。それは我々が喋った住民の方が言っていました。そこは正直我々が関与できないところ。
利用者の会	そこまではね。
市	だから啓発に関しても、我々はもちろんURに行って、わーわー言うてURもやるし、芦屋市もやるし、利用者の会の年次報告とかも配ってやってますけども、特にURからの啓発がいろんな形で配布であったり掲示板であったりやってるけれども、入居の時の問題がある可能性はある。だからそこに1人の人が住むというので、入居のあれ書いてるかもしれないけど、実はそこに5人6人住んでるとか、この人は名前だけやったというのがある可能性はある。
利用者の会	そういうのが、高浜の2番の方が多いわけですか。イメージ的に。
市	ちょっとそれは分からないけど。
利用者の会	想像だから、別にね。
市	でもやっぱり我々は1時間ほど住民の方とワイワイ外で喋ってたんですけど、外人の方ばかりが通りはるんでね。難しい問題ですね。
利用者の会	例えば名義貸ししてるのはURとしては認めてるんですか。認めてないでしょ。そういうのは。

市	認めてないと思うんですけど。
利用者の会	契約者と実際入居者が違うという。これはまさに契約違反ですね。そういうのは。
市	ただ実際それをURが調べてるかどうかは分からないんで。
利用者の会	だから実態を調べるのは難しいと思うけれども、そういうことも想像されるよということでURにむしろ調べてくださいねと、いいようにされてまっせと、いうことですよ。名義貸しみたいに勝手に、それは強く言うことができるんじゃないです。契約者としての責任ですよ。実態がちゃんとした人間が入ってるかどうか違うか、それはチェックする必要がこんだけ問題になってるんだから、URとしては、私は絶対あると思いますけどね。
市	とりあえず我々も何度か尼崎の方にも行かせていただいて、そのものを持って、実際あの臭いものを持って、こんなもん詰まっていたわ、みたいなものを持って行って、その場でバツと広げてこんななんやわって話もして、URの方もだいたい問題としては捉まえてはくれています。だから今、動きとしてはいろいろしていますが、やっぱりまた我々もタイアップというか、強く言いながら、いろんなことを試していかなあかんと思ってますけど。
利用者の会	実際UR自身がやってなくて、その管理会社があったわけでしょう。そこがほとんどやってるから、UR自身はあんまりよく実態がよく分かってないというのがあるん。
市	あるかもしれないですね。今の社会構造というか、委託があって、どんどん下までいく状態というのが難しいところですね。
利用者の会	民間に下ろしてるから、結局民間が行政ほど強制的に何でもできるわけじゃないんでね。その辺がかなりあるのかな、いう気もせんことはないんですけどね。
市	そういう啓発というのは、市の業務であるという1つの前提があるから、本当に難しいところです。
利用者の会	難しい。誰がやったか分かんないもんね。
市	ごみに名前書いておったらそこ行って、コラ言うだけなんですけど。そういうことがあれば、我々住所とか分かれば実際に行って話をしますんで、その方が逆に効くのは効きます。
利用者の会	あとよろしいですか。これは今いただいたのは分析ですよ。1年間の分析をして、データがここに 있습니다。これを分析した結果、こういうサマリーができません。それでは終わったらいかんのですよ

	ね。何のために分析するかと言ったら、目的はあるはずですよ。分析するための分析では意味がありませんので、何のためにこれをせっかくサマリーしてされたんですから、これを活かして次のアクションをどうすべきかというのが、すべきことですよ。分析した後。
T M E S	そちらは目標で安定稼働で貢献させていただくということになるんです。今回はそちらの方の目標の方に定量的な何か評価を入れるようにさせていただきたい。
利用者の会	もっぺんワーキングでやったらどうかな。これデータいっぱいあるからね。
利用者の会	はい。分かりました。じゃあ、ワーキングでしましょう。
利用者の会	利用者の会はこれ、自ら分析して、私も今こっち見てるんだけど追いつかへんねん。例えばこれ資料7.19ページのところで南芦屋浜地区ローカル設備ドラム呑込み異常30件ってなってるでしょ。そのうち27件が高層住宅。ということは、市営・県営のところやね。
T M E S	そうです
利用者の会	市営・県営のところやね。市営か県営かどっちか分からんけど。これ今ちょっと見てるんだけど、時間足らんで。ずっと見てると、見てるんだけど、これも割と同じところで起こってる場合もあるけど、違うところでも起こってると。
T M E S	そうですね。どうしても戸建ての方のもしくは投入口の高さから落ちる分だけになるんですが。
利用者の会	上の方から落ちるからね。これ何かアクション起こしてる。
T M E S	いえ。
利用者の会	例えば市営・県営の方に、管理人か何かにちょっと。
T M E S	実際捨てていけないゴミが入ってありましたら、啓発の方させていただきます。
利用者の会	これおそらくね、以前から起こってるわ。陽光町とあっち、今回だけはなしに。そやけど今回30件も起こって27件もそこやけどね、何らかのこれアクション取らなあかんで、具体的なアクションね。
T M E S	ゴミが落ちてくるところにゴム、クッションになるゴムがありまして、どうしても、そこが重たいものが当たったりすると傷んできたりします。
利用者の会	それは市営・県営でやってるやつやから、変えてもらわないかということちゃうん。

T M E S	そちらの我々の方で、支障が出るようでしたら補修交換が必要で。
利用者の会	その辺ちょっとあんまり時間ないやろし、これちょっとね、せっかくここまで、こんなにようけまとめてもうてるから、これを元にして、またちょっと話せないかんね、具体的に。利用者の方としてどうすべきかとか、せっかくこれこんなまとめてもうて。以前やったら中に入ったときね、西さんやったかな、女の人。若い女の人。環境施設課に来て。
市	中さん。
利用者の会	中さんか。中さんが実際にあの輸送管の中に入って行って、やるところ写真撮ってもうて、この若い女性もこんなに入って頑張ってくれてるんだね、いうことを出したわけですね。もしそんなんでね、中に入ってわーってやってるのを写真撮るとかね、輸送管の中に入ってやっとうとかね、そんなも利用者の会にアピールしてもろたらどう。こんなに汚いところに入って3Kでやってるんだよ。いうのも分かるしね。またそれもちょっと考えておいてください。
市	すみません。山口さん。先ほどの緊急対応でかかる経費についての報告のタイミングと様式と金額の精度についてはこの様式ではなくて、また別のこちら。どちらかというと市サイドの話になるので、別の様式で作成してもいいかという。
利用者の会	様式はもう今まで決めた様式。ちゃんと何月何日何があって様式が。
市	ちょっと私がスパッと出てこないの、また後で確認させてください。金額の精度についてどこまで額で出せるかとか。
利用者の会	それはワーキングでお話ししましょう。
市	報告のタイミングは毎回のワーキングでよろしいですか。それとも3ヶ月に1回ほどに。
利用者の会	終わった時に。
市	終わった時に。今回の高浜とかの場合。
利用者の会	高浜の1月時点で終わったでしょ。一応パイプラインが動くようになった。
市	高浜2は臨時収集でずっと継続してる。
利用者の会	一応そこで区切りをつけて、臨時収集はずっとあります。そうしないといつ終わるか、僕らも分からないので、お金の把握しようがない。

市	ひと月ごとのワーキングで報告しますか。臨時収集は今、週2回でやってる。
利用者の会	臨時収集あまり大した金額じゃない。僕に言わせると、月に決まった金額なんで。
市	ほぼ決まった金額になる。
利用者の会	それはできる。そうじゃなくて、一応パイプラインを通すように3回やったじゃないですか。
市	洗浄の話ですね。
利用者の会	それが一番大きなお金だと思って。
市	それは終わった時に報告という話ですか。
利用者の会	でいくらと。ただし、その後ずっとお金かかってますよ。毎月という話です。
市	分かりました。
利用者の会	はい。お願いします。
司会	そしたら同様の件について、利用者の会から
利用者の会	34ページを見てください。T M E S さんが頑張って作られた資料でトータル290件のトラブルがあって、そのうち利用者起因として、◎を付けてあるんですけども、22件あってます。分析はいろいろあるとして、問題はですね、結論は9ページの7番。短期賃貸住宅と外国人対応。資料9です、36ページ。ここにちょっと1つの提案を書いております。この問題は外国人の問題にはしたくない。短期滞在者それから多言語対応どうするか、退去時の大量廃棄をどうするか、管理責任のあいまいさ、こういう問題を一緒に考えないと、単に外から来た人が悪いという話で終わってはいけません。システムのきちんと進めなきゃいけないと私は考えて、次のページに提案をしました。 まず入居・退出時に説明をする。今どうなっているかと言ったらURが外部の委託者に委託してます。外部の委託者が不動産会社と契約を結んでます。不動産会社がそこに6、7人1つの部屋に住まっています。そういう状況です。ですから下まで行ってない状況。だからそこはきちっと下まで行くようなことを多言語化でルール説明を行うということを徹底して、まず入るときと、出るときは、きちっと会社が説明する。大家さんが説明する。下の方にたまたまこれは埼玉県 of 川口市なんですけど、4カ国語で必ずこうやって書いてます。総務省は今

	年度から4月から多文化共生推進事業というのを開始してます。これで秩序ある共生社会ということで、伝える外国人に対してごみ分別などの地域のルールを収得するための費用を2分の1負担するということを決めてます。ですからこれを利用するなりして、やはり外国の方に対する対応というのを単にシステムのどうするかということ芦屋市として検討して、それを不動産会社なり管理会社と考えて対策をと。だから最後に3番目に所有者責任というのがあるんですよ。大家さんの責任というのを明確にする。これは文書で交わしてもいいと思います。だから芦屋市長が相手さんに対してきちっとした公式な文章を出して、そこで相手の返事をもらう。代表者の返事をもらうということやっていかない限りは下のレベルでちょちょちょちょとやっても、何も変わらない。ということで、私の提案はそういうことで、これをシステムの動かしていかないと、この問題は解決しない。さっきおっしゃったように、外国語学校のあれをね、1つの提案としては大変いいと思うんですけども、こういうことを具体的には決めてもいいですし、芦屋市でやるという事をぜひとも考えてほしいなと思っております。国もそういうことで動き始めた。2分の1使いましょうよ。これは川口市ですね。川口市はすごいのは表には4カ国語ですけど、ホームページとか6カ国語です。すごいです。今AIがあるんで、簡単に、1秒から2秒で全部翻訳できる。あらゆる言語を翻訳できる。簡単だと思います。絵も作ってくれて言ったら作ってくれますんで、カラスでも何でも。日本語が化けてたんですけども、つい2.3日前も日本語もきちっと絵にしても化けないようになりましたんで。その辺を利用してやっているためになります。私の提案です。どうですか。
市	そうですね、外国人がどうかというのもまだ分からないところではありますけども。先ほど言っていた、このダイエーの日本語学校。日本語学校のところでそういう話をするとか、ちょっと色々考えると、このまま延々と臨時収集でお金を垂れ流していくのもあれですし。
利用者の会	これは外国人と限ってない。短期で借りる人に対して、その中の一部が外国の方で日本人も短期で工事関係者とか入るときありますので。やりましょうか。
市	はい
利用者の会	どっちにしても、知恵を出し合って。
市	はい

利用者の会	はい。私は以上です。
コンサルタント	山口さんが頑張って提案してくださっているので、私もちょっと。1個はポジティブデビアンスって言うんですけど、このたくさんあるパイプラインを利用している中で、今問題になっているのは高浜のやつと、条件が同じなのに事故が少ないところを見つけて、そこで何が起きているか。事故が起きたところばかり見ても分からないので、起きていないところを見るっていうのができたら、ちょっと何か分かるんちゃうかなっていうのが1つと。もう1つはこの枠組みの中でどうしようどうしようって言うてもなかなか突破口が開けないので、パイプラインのごみ捨て意識改革をするためのアイデアを募集するコンペをするとかなんか新しい血がいると思っていて。
利用者の会	外国人問題ってあんまりすると、大変なことになる。
コンサルタント	外国人問題。山口さんおっしゃったように、これは外国人問題じゃないので。ない立て付けで。
利用者の会	実際ね、ダイエー、夜になるとね、やっぱりダイエーの周りに集まってきてんねんね、みんな。仲間同士やっぱり、僕離れてこっち来てるから、やっぱり同じような人が集まって話してるんですね。その辺なんか活用できないかな、いう気するんやけどね。
コンサルタント	そのうちの誰かと仲良くなればいいんですね。
利用者の会	そうそうそう。そういう人にこんなこと知ってる、みたいな話をしていく方が実態がよく分かるに違うかなという気はしますけどね。声かけしてみようかなと思ったりもするんだけどね。いかんせん。外国語が分からない。
コンサルタント	あともう一個は、何が起きているのかをやっぱり利用者の会の皆さんも写真とか提供してもらって、皆さんに周知したりしてくださってますけど、インパクトがあるのは、やっぱり動画か。環境施設課のインスタ動画。あれ、反応悪いぞ。あれ、環境施設課インスタアカウント持ってる。
市	Xはある。
コンサルタント	他にも。
市	Xとホームページしかない。
コンサルタント	ほら、こんなの出てきてんねんで、みたいな動画とか。誰がすんねんちゅう話があるのは、よく分かってるんですけど。こんなにみんな真剣に考えて悩んでいるのになかなか解決していないのを脇で見ている私としてもめっちゃ悔しいというかもどかしいとか思っている

	ので、ご協力できることがあれば、神戸市民ですけど、いち市民として、ご協力したいと思っております。
利用者の会	URでしょ。URの下に、URは何か下に委託しているみたいですか。斡旋業者、管理会社。管理会社に言って要するに下までどんどんとURの力で管理会社はこういう、これは日本人も外国人も含めて、そういう管理会社が斡旋しているんでしょ。入居の。そこまで言ってちゃんとしてくれよと、入居の際はと。地域の問題になっているよと。それをどんと下に行って、実際に入居者に対してはちゃんと説明せえよと。そういうのは、自然の流れとして、一番効果的じゃないですか。
市	そうですね。でも実際それを我々もやっているけれども下まで行っていないような感じをうける
利用者の会	そしたらもう一回言ったら。
市	それで今、何回か尼崎には行かせてもらっているんですけど。先ほど言ったように、実際に住んでいる方が違うかったらもちろん届かない。
利用者の会	センタービルの中に申し込み書が置いてありますやん。あそこで受付できるんですかね。
市	ちょっとURに入居するときのあれは、我々は分からないですけど。
コンサルタント	いくつかルートがあります。町場の不動産屋さんもURどうですかって言えるし、URに直接行って入居させてくれということもできるし、出張所みたいなところで入居申し込みできるし、普通の賃貸住宅よりちょっとだけ窓口が多いのがURと思ってもらったら大体間違っていないです。
利用者の会	一番URに強く言って、下まで言って、入居者まで言って、これでちゃんと言ってくださいよと。URもそれで言って入居者が違うと、書類上違うということになれば、UR自らが分かることなんだから、実態を。名義貸ししとるんやいうことが。それがあなたのURのお仕事でしょと。こんだけお金を多額に使っている、芦屋市に対して迷惑かけてるんだから。それで知らん顔するURの、あれは私は理解できない。強く言えばと思いますよ。それが一番効率的だと思いますよ。入居者に私どもから言って、例えば言葉がね、さっきダイエーの前とか行くのはやぶさかじゃないけど、言葉がタイムリーに伝わらないですよ。そんな無駄な時間よりもどんどんとしたり下ろした方がURに強く言うと。それが一番効率的かなと思いますけどね。

コンサルタント	それが山口さんが提案されているオーナーの責任で、いうことちゃいますかね。おっしゃる通り強くっていうのを、市長名でおっしゃってるので、そういうことなんだろうな。
利用者の会	だから最終的には市長まで行きますよと、うちら。そんだけ芦屋市としたら、この問題を捉まえてるんですよという形で、まずはウォーニングでURの方に対して動かな。イメージ分かります、私は、URこれで仕事やってるんかいなという感じのおっちゃんだと思います。そういう人を動かすってやっぱり力しかない。
利用者の会	条例上のね、廃棄物の条例上の指導、助言いうのがありますよね。あれ、あそこまでは行ってないということ。その辺はどうな。
市	我々も強くってというのは、あれやねんけども、何回言ってるのかな。かなりの調子では言ってます。実際こんなもんが入ってとってもどうしようもないよね。実際先ほど言われたみたいな臨時収集がなんぼで皮を向いた話も全部。で、洗浄で何ぼかかって、めっちゃめっちゃ迷惑かかってんねやという話はして、だから何とかして、この状況を止めたという話はしてます。
利用者の会	ちょっとよく分からないけど、指導、助言いうのは、例えば市長名でやるとか部長さん名でやるとかそういう話になってくるわけですか。そこまで大げさにするかどうかいという問題がある。
市	どこまでやるのか。ただちょっとややこしいのはURからすると啓発というのは基本的には市の仕事じゃないのかというところもあるので、もちろんそれを大きな声で言うわけではない、手伝うけれどもメインは市でしょというのは、多分考えてはいると思います。ただ、その先ほど言ってた使用者責任というところに結するのかもしれないけども。
利用者の会	どこの自治体の話でも廃棄物のね、なかなか処理ができていない今、放置ごみいうんかね、歩道でよくあるので、なんでそんな進めへんのかなというつも思うよりはまさにそういう状況に陥っている。
市	もともとね、規制市街地であれば、そういうごみ出してたら収集が普通に黄色いシール貼って置いておくわけじゃないですか。ほったらかしにした状態。カラスに荒らされたら近隣の人なりその人が持って帰るなりなんなりするわけでも、今回パイプラインが止まったことによる代替収集で場所も市が決めて、週2回というのを今だいぶ踏み込んだとは、踏み込んではいるんですけど、やっぱり立て付けが違うとか、規制市街地であれば、この場所に取りに来てくださいという申請をして、その場所に対して、その地域の方でコンセンサスが取れている状態での、内心は知らんけどね、話でやっている。やっぱり

	今回も住民さんの話合ってたのは、私の窓から見える場所に、こんな荒れているのが嫌や、もう心が荒んでくると、カーテンが開けられへんって泣き出したんですね。場所をこっちにしてくれという話があるんですよ。こっちにするのは全然可能は可能やけども、結局今度はこっちの人が困るんじゃないですか。立て付けが全く違うというところが市としてもものすごい歯がゆいというか、我々はいろんな皆さんの利便性を考えて、このちょうど中間位置が一番みんなからの距離があれかな、パッカー車が寄りつけるな、と考えると場所を指定させてもらってやんねんけども、構造が違うというかね。どういったらいいのかな。
利用者の会	ここ以外のところはね、ここにごみの集積所を組んで許可してください、収集をここでしてくださいという話になりますわね。で申請しますわね。申請書の裏には利用者の名前が書くような欄があったと思います。パイプラインは全然それがないんで、誰が使っているか全然全く分からない。その辺パイプラインを最初に設置したときにその辺りまできちんとやっとなら、こんな問題にはなっていないかも分からないけどね。その辺がこれから新しい代替案をやるときにやっぱりそういう問題が出てきますわね。自治会に入っていない人はどうするのか。やっぱりその中に名前を書いてもらわんと、そこを利用できないという話になってくる。
市	そうですね。やっぱりこの地域の人で、この自治会で、この新しい収集方法とかっていうのを。
利用者の会	そうするとその維持管理するための費用というのは全体でやっぱりみなあかんわね。
市	そうですね。
利用者の会	自治会に入って無い人も、その費用を分担せなあかんいう話になってくと思うよね。その辺りは大きな今後の問題になると思うけど、やっぱりそれをやらんと同じような状況がまた出てくる可能性がありますわね。
市	そうですね。
利用者の会	利用できないから、そこ置いとけ。みたいな話になってくと思う。
利用者の会	ワーキングでやりましょう。
市	一回でもその話、申請の話はワーキングでしたことがあります。最初は必要ですねという話は収集の方も必要です、という話をしていたと思います。

市	また、ワーキングで詰めましょう。結論はちょっとこの場で出ないと。
利用者の会	ちょっと今、パッと見たあれなんやけど。これでちょっと見とったんやけど。割とセンター多いね。
T M E S	そうです。
利用者の会	おおなってきたるんちゃうん。
T M E S	センターのドラムにありますセンサーに水が入ってきていて、水漏れがついたりすると異常が出たりする。
利用者の会	今パッパッと見たんやけど、令和7年299件のうち約4分の1がセンターになっていて、その原因が何やいうたら、雨水。雨水による影響やいうのを書いたあんねん。もう大部分。
T M E S	そうですね。
利用者の会	雨水のあれは何日間にも渡ってんのよ。これもまたね。
T M E S	輸送管内に500経の配管の時は雨が降った次の半分くらい水が入っている状況もありますので。
利用者の会	これはね、割と日にちが多いんやわ。この1部分だけやなしに、他のところも割と固まってる。
T M E S	毎日水が入って、毎日異常発生したりするんで、我々が出勤しまして。
利用者の会	あれは確か最初は遠心分離器に入るんやね。遠心分離器が入って、その後スクリーフィーダー。
T M E S	下に落ちる分と防塵機へ行く分。空気は防塵機に行きまして。
利用者の会	下はごみの部分はスクリーフィーダーでドラムの方に。
T M E S	そうです。
利用者の会	水がやっぱり遠心分離器だと下は落ちるわなみんな。
T M E S	そうです。
利用者の会	スクリーフィーダーとかドラムの方へ行くやん。割と多いな。4分の1があるやんか。簡単にちゃちゃちゃと見ただけでも4分の1がセンターやん。
市	どうしても穴があったら地下水位が上がっちゃったら排水しても排水しても。
利用者の会	もちろんもちろん分かっているね。分かっているんだけど。その回

	数、日にちがあちこちわたってんねん。この辺もやっぱりね、対応せんとやっぱり機器が悪なるわな。650キロの送風機とかあっちの方にね、悪い影響を及ぼすからね。
T M E S	異常で止まらないように。センターの上に水がかからないように、部品の取り付けとかもさせていただいているんですが、どうしても量が多くなると。
利用者の会	前、遠心分離器穴あいたわね。
T M E S	はい。
利用者の会	あれ。もう1系列の方は大丈夫。
T M E S	現在は空気漏れのことは。
利用者の会	ない。もう中がかなり腐食しとんちゃうん。水がそんなに入っているとったら。
T M E S	はい。
利用者の会	ぼぼん。ぼぼん。ばっちゃんって
T M E S	穴があけば。
利用者の会	また、これね。その辺ちょっとまたワーキングのときにね。
T M E S	はい。
利用者の会	その辺のセンターの部分もちょっと分析いかお願いしますわ。センターの方が気になるわ。
司会	ちょっとその他議題というのは山口さんの方が提案をいただいていますので、山口さんお願いします。
利用者の会	はい。最後にちょっと提案を。この会議をより良いものにするためにはどうしたらいいかと私はちょっと考えました。まず次第なんですけども、できたら1ヶ月前に早期に公開してください、がお願いします。市民が内容を理解しやすく、傍聴者を増やしたいという基本的な考え方があります。我々だけじゃなくって傍聴者もいるということです。昔は傍聴者はいたんですよ。ただ最近全然いないんで、やっぱりこれは大切な会議なんで、そのためには早期にしてほしいことが一つです。今ね、30ページもあるやつを今パッと読めって言われたらそれは無理ですよ。
利用者の会	特にこのデータは非常に重要なやつだからね。この資料は。
利用者の会	それでA4一枚で要約してほしいと。書く人がそれぞれ自分の意見を出す場合は、A4一枚にしてほしい。それは簡単にできます。数秒

	でAIでボーンとPDFでも何と云うか、A4・1枚で要約してくれますから。何ら問題ない。しかも、それ無料でやってくれますから。ぜひともそれを使ってやってください。そして、情報量が問題じゃないんですよ。何が論点なのか、何が議論すべきか何を決めるかということが問題なんですよ。情報を一生懸命ながら説明しても、それはあんまり意味がない。ですから我々がここにこんだけメンバーが集まってやるためには何かを決定せないといけない。そこに最善の努力をしたいということで要約ページを入れています。 3番目。AIがチャットGDPができて、3年経ちます。私個人はAIのビフォーアクターって時代が完全に変わったと思っています。ですからそのAIが時代に合わせた会議のやり方は何だろうかということを決えず考えています。そのためには情報共有とか説明とか要約とか分析はもう全部AIに任せましょうと。我々が無駄な時間を使って一生懸命、TME Sさんは大変だと思います。このデータを分析するのは。それはもうAIに。これPDFのエクセルでボンとファイルの測定データを一発で分析してくれます。それに任して私たちはここで考えるのは、何を優先するのか、どのリスクを引き受けるのか、市民として、最終的に何を選択するのか、ということをしてここで皆さん方と一緒にあって、合意形成を図る。説明中心の会議ではなくて、行政と市民が共に考え、合意形成を行う場にすると。そのためにはAIを使い倒す。人間でしかできないことは合意形成ですから。そこに今後は私たちと一緒に信頼関係を持ちながらやっていきたいというのが、私の結論です。ですから今までみたいに長々とする説明はもうやめて、説明は事前に終わらせる。AIに任せる。全部やってくれますから。あとはその結論をここでどうやって出していくかということにしている。それから細かい技術的なデータ分析はワーキングでやればいだけなんですから。ここでやる必要はないかと私は考えていますので、ちょっとこの会議をもう少しせつかくAIを入れて、そんな会議にしたいなという私の提案です。以上です。何かご質問がありましたら。これは私とAIがずっと長年議論してきたテーマです。どうやって、市民と行政が一緒になって、問題を解決するか。その中でAIをどう使うかという大きなテーマがあります。その一環です。
コンサルタント	合意形成のプロということになっている私としては、アフターAIの会議の作法みたいなのが今ちょうど確立されつつあるというか、まだちょっと黎明期ではあるので、山口さんの今日のお話でちょっとこれちゃんと話し合いのやり方そのものがアフターAIと変わってくるのは間違いないので、そこ整理しないかなと。反省込みのものだと思ってワーキングの進行の話に関しては芦屋市さんとちょっと考えます。

利用者の会	これはワーキングでの資料やわ。これはね。これはやっぱり分析せないかんわ、これね。非常に重要な資料やわ。現実やんか、設備の。設備保全とかそういうことをやるのに、やっぱりこれを分析して、これをそれに対してどうアクションを取るかとか、これ大事なやつやから。これ頼むよ。
市	私に。
利用者の会	そう。
市	頼まれても分析はするんですけど、分析は好きなんで、いくらでもやるんですけど、視点がそれぞれ違うから、私個人の判断になっちゃうんで、怖いなぁと。特に私実際の利用者じゃないんで、ここでやっぱり捨てるなどなかなか思っていないですけど。
利用者の会	T M E S さんのお手伝いして。
市	はい。これは本当に大事な。はい。
利用者の会	せっかくこんだけのまともしてもらってんねんから。有効に分析して、次年度どうするか。
市	そうですね。
利用者の会	大事に。
司会	山口さんが提案されている内容はその通りだと思いますので、ちょっとそのことができるように対応したいと思います。
利用者の会	そして、やはりこの会は芦屋市の模範となるような市と行政が一緒に作っていくのでね、これはずっと今まで私たち10年間やってきたんですから。
利用者の会	そういうのが大事。それともう令和元年スタートして10年くらいになるんやから、またいっぺん集会所で現状とかいうてね、また市民に市民に説明会。知らない市民多いでござつ。腹立つくらい多いで。
市	そうですね。新しい人も入ってきてますし。
利用者の会	うちの自治会の63世帯で2カ所投入口あるんやけど、私、夜に1カ所こう指定ごみ袋入れてほかしに行ったらこないだ言うたかな。
市	犬の糞かなんか。
利用者の会	入れて終わって閉めた途端に女の人が鍵開けて犬のフン入れようとするから、ダメダメ指定ごみ袋使わな言うたら、すいません、言って向かいの自治会の方に向かって行くんやけど、その次に来た男の人がうるさいええやないか。ゴーと行ったから非常識のやつやな。声掛か

	して、うるさいわ、じじいが、いうて暴走や。そやからやっぱり知らない人多いね。
コンサルタント	どなられてるうちはいいですけど刺されたりしないように。
利用者の会	私、そやから総会の時に皆さん言うたやん。あんまりそっちの人聞 気いつけんと暴力ふるわれたら大変やから、やめときや。知らない人 多いねんて、パイプライン使ってる地域でも。利用者の会なんか入っ てないねん、自治会。あちこちにあるわ。知らない人多いねんて、そ ういうね、そやから指定ごみ袋使ってないところ50%ぐらいあるやん か。パイプライン地域でも、全然伝わってへんねん。また10年経っ たらね、各集会所でパイプライン地域の住民に現状パイプラインどう なってます、皆さんこうちゃんとやってや、とかね、代替案頑張っ てますよ、とか説明せなあかん。やっぱり皆さんに通じない。知らない 人多いわ。もう私ら散歩あちこちするけど住民の人が（芦屋市のごみ 指定）袋に入れない。使ってへんねん。使ってへんで入れてる。もう ほとんどやん。
利用者の会	市が、行政が、住民にやれることを言ったら、例えば我々のところ も文書持ってきて、これ貼っといってくださいみたいなそういうところ ぐらいしかできんよね。そっから先は相手の話になるから。なかなか これそうやって市から来たから貼っとう、いう程度の話になってしま う。ということは理事会、自治会の方しか分からないみたいな状況 がずっと続いてるね。実際私も理事でやったこともあるけども、自分 で文書作って貼ろうと貼っていくという活動はほとんど見えないよ ね。ごみの問題で、自分らで理事会作ってね、ニュースの中にはこん なものがあったという話が出しても、それ以上できないよね。我々こ こで議論してること自体が住民には全然伝わってない。それがずっと 続いてきてるよね。どうするかというのは、我々自身の問題になってき てるよね。それがますます若い人はかわりたくない。だから我々は 年寄りばかりがやってる感じで、余計詰まってしまう。この辺はどう したらいいか全く分からない。
市	言う通りです。
利用者の会	文書を作って貼っても周知できない。単に貼っているだけ。 人によっては「そんなの貼っていた」というの結構あるんですよ ね。
市	そういった議論も含めて。
利用者の会	林さんや荒木さんの怒っている顔写真と一緒に。

市	それをやっても。その話もワーキングでやりましょう。ここはあくまでも合意形成の話になる。
利用者の会	あんまり目立たん見えへんねんて、もうみんな。もうみんな。おもしろいものやと何人とみるやん。
市	多分違う問題だと思う。
司会	議題としては以上になります。他に何か特段ある方よろしいですかね。今後の予定ということで次の第51回の開催協議会が定年通り11月頃に予定しておりますので、また先ほど山口さんが提案いただいたような段取りで進められるように、進めて参ります。
利用者の会	最後どうですか？
市	去年から参加させていただいて、毎回このような大きな会議にだせさせていただいてるんですが、ほんとにワーキングのほうもそうですが、代替収集の件についても、ほんとうに貴重な時間をいっぱい使っていただいてご意見いただいているというのはほんとうに貴重な機会と思っています。 ちょっといただいた最後の提案で、A I 使いなさいという方向性ではあって、いろいろ研修であったりとかやっているところなんです。それを具体的にどういうふうに、それを活用していくのかというところがまだすごく長けている部署もあれば、そうでもない部署が、ちょっと濃淡があるんです。だからそういうところもこういう信頼関係をいただいているということで、我々も勉強しながら進めていけると思います。ということで職員の方も多分もっともっと可能性の方に時間を費やすということが大事だと思います。それが協議会に向けて、今後はすごく盛り上がって行くということで、そういうことかなあと思っておりますので、特に我々ができることもっともっとあるとは思いますが、なかなかすぐにはちょっと手がつけずらいところもあるかと思うんですけれども、引き続き、またこういった話し合いで私たちの気づきにもつながると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
一同	ありがとうございました。
司会	以上で開催協議会を終了させていただきます。本日は土曜日の早い中また、ありがとうございました。
一同	ありがとうございました。